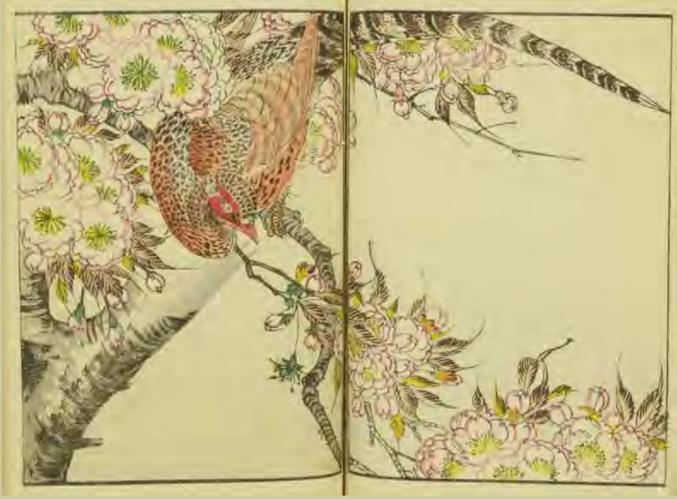


多治見工業補習学校（1）

多治見工業高等学校創立より以前に
わずか二年間存続していた

多治見工業補習学校と その蔵書印のある書籍



掲載した図はいずれも『工藝新図』 この雑図の桜の花弁には空押しが施されている

○多治見工業補習学校とは

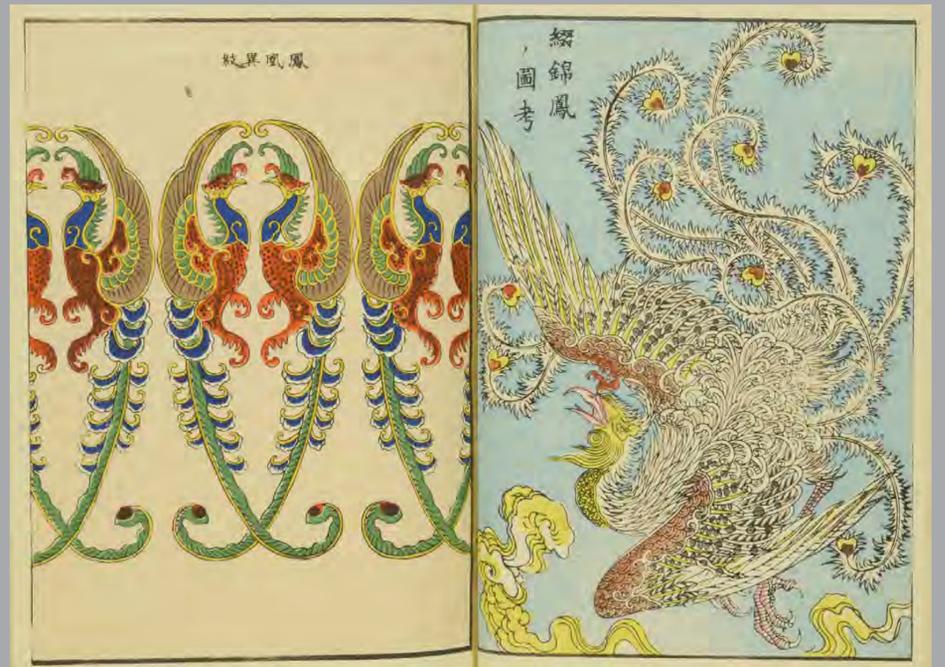
明治二十八年から三十年の二年間、多治見工業補習学校という実業学校が存立していました。この多治見工業補習学校は、三十三年に開校した土岐郡立陶器学校（現在の多治見工業高等学校の前身）より五年も前に開設され、不幸にしてわずか二年で中止になった（※）ものでしたが、多治見の実業教育の嚆矢となるものです。また岐阜県下の実業補習学校は三十一年恵那郡坂下村実業補習学校開校が最初だと『岐阜県史近代上』にあります。これより三年も前に多治見工業補習学校は開校していたことになり注目されます。

※明治二十六年に実業補習学校規定が公布されて逸早く開設されたが、同時に高等科廃止も申請し、「高等科生徒ハ悉皆同校へ入学」としたために、授業内容は生徒や親を十分に満足させるものとはならず「一般町民ハ大ニ遺憾トシ」町議会でも問題となつたが、二十九年に高等小学校が復活したこともあり、工業補習学校の入学者数が激減し中止されるに至りました。『多治見市史通史編下』には、その中止について「最大の理由は、多治見市域で唯一であった高等科を廃止したことにつきてであろう」と記されています。

郷土資料室所蔵の多治見工業補習学校の蔵書印のある書籍は『本朝陶器攷證』（一〜六全揃）と『工藝新図』（下）です。当時の実業学校生徒がどのような書籍で学んでいたかを知る貴重な資料として興味深いものです。今回はその内『工藝新図』（下）を紹介します。

○『工藝新図』

著者は画家の田中幽峰。生年文久三年（一八六三）か。没年不詳。奥付には明治二十五年十月刊行とある。上巻下巻のみ。



ブリテイッシュミュージアム所蔵の『工藝新図』（明治二十五年五月刊行の版本）は上下巻揃であり、その前書には、「千器万物この模様依りてその体を美にしその用を美にす」「近世工職家はその形状にその模様旧套をかさね陳腐を追って新奇の機軸を出すものなく以て内外輸出の途を塞ぎために商売の難をきたす」とあり、本書が工芸家の意匠創案に資し「大いに工商の参考を助け」るための図案集として上梓されたことが分かります。

郷土のことについて調べるなら 郷土資料室へ

地元に関する資料や市民の皆様から寄せられた文書や記録などを整理し保管しています。保管資料は利用者の方の調べ学習・研究などにもご利用頂けます。地域の歴史に関するご相談は、郷土資料室までお問合わせ下さい。市民の皆様からの郷土資料のご寄贈や情報の提供なども募集しております。



多治見市図書館郷土資料室

多治見市豊岡町 1-55 ヤマカまなびパーク 4階 JR 多治見駅より徒歩 5分 TEL. 0572-23-3783

開室時間：火～土曜日 10時～17時（日・月・祝日・年末年始は休室） ※図書館とは開室日・時間が異なりますのでご注意ください。